

令和5年 玄米の被害調査結果

1 調査の概要

(1) 調査サンプル・粒数

中通り…16 サンプル・356,296 粒

会 津…12 サンプル・264,946 粒

浜通り…10 サンプル・229,213 粒

合 計…38 サンプル・850,455 粒

(2) 調査方法

1 サンプル当たり 25 株を坪刈りし、玄米に調製後、500 グラムを調査した。

2 斑点米混入率

斑点米混入率は中通り、浜通りで平年より高く、会津でやや高くなりました（図）。

本年は割れ粳が多く、カスミカメムシ類による被害が増えやすかったこと、春先から気温が平年より高く、出穂後の降雨が少ないなど斑点米カメムシ類の増殖・活動に適した気候だったことから、被害が平年より多くなったと推測されます。

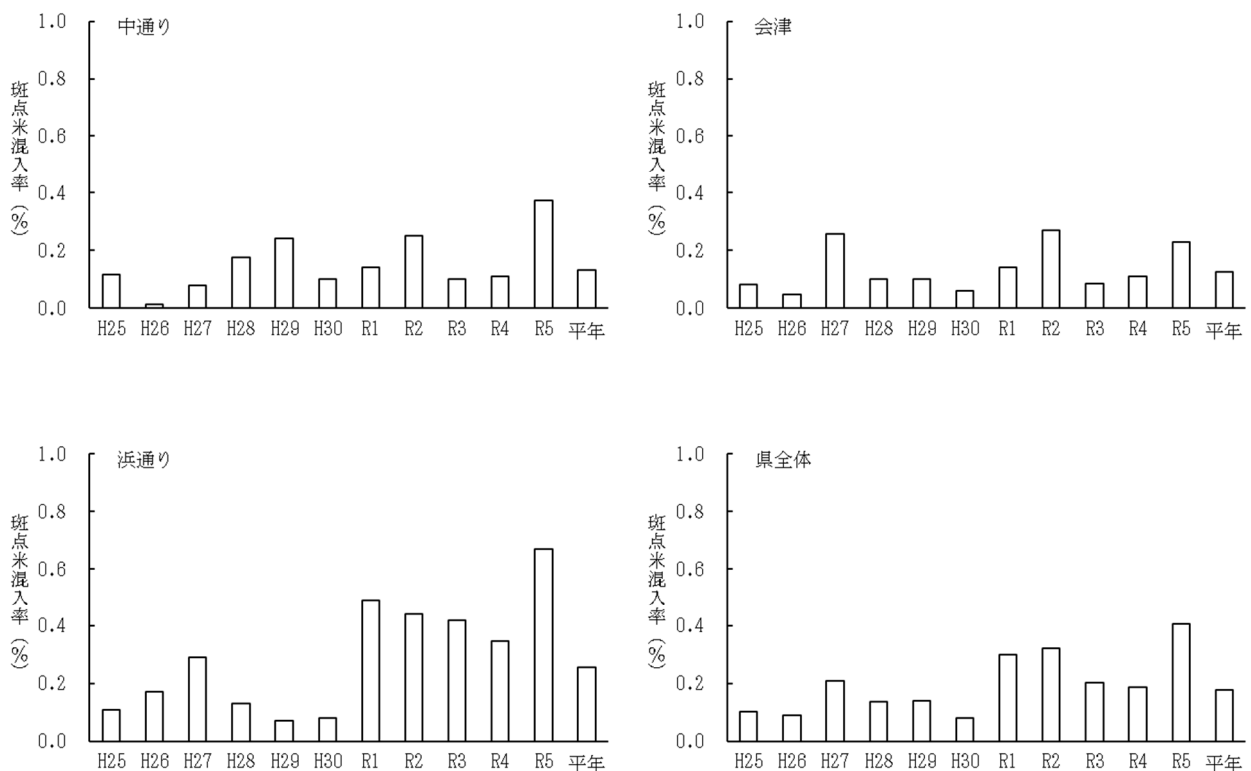


図 斑点米混入率の年次推移（地域別）

3 地域別の主な加害種

玄米の被害状況及びすくい取り調査の結果から推測した主な加害種は、中通りではカスミカメムシ類及び大型カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ）、会津ではカスミカメムシ類及び大型カメムシ類（ホソハリカメムシ）、浜通りでは大型カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ）でした（表、写真1）。

表 玄米の被害から推測した斑点米の加害種別割合

	カスミカメムシ類	大型カメムシ類
中通り	55.2%	44.8%
会津	45.3%	54.7%
浜通り	23.1%	76.9%
県全体	39.3%	60.7%



写真1 斑点米（左：カスミカメムシ類による被害、右：大型カメムシ類による被害）

4 いわき市で発生した基部被害

本年、イネカメムシが捕獲されたいわき市のほ場では、大型カメムシ類によるものと推測される被害粒のうち、およそ3割が玄米の基部に被害を受けていました（写真2）。

イネカメムシは玄米の基部を特異的に加害することが知られており、今回確認された基部被害は主にイネカメムシによるものだったと推測されます。



写真2 基部に被害を受けた玄米

5 クサビ米の多発

クサビ米は玄米の胴部分に黒い横筋が入り、症状がひどくなると黒点部に裂け目を生じ、玄米の品質検査では着色粒として扱われます（写真3）。

本年は黒点米の割合が0.11%（平年値0.03%）と高く、その多くがクサビ米でした。

クサビ米はシンガレセンチュウやイネアザミウマによる加害、高温による生理障害で発生することが知られていますが、ほ場の状況や気象条件等から本年のクサビ米の多発は高温によるものだったと推測されます。



写真3 クサビ米